|  |  |
| --- | --- |
| 第19回　災害対策委員会議事録 | |
| 日　時 | 令和元年5月11日（土）13:30～15:50 |
| 場　所 | 榊原病院 第一研修室 |
| 参加者 | 辻（委員長）、東（桑名ブロック）、長谷川（四日市ブロック）、竹本（鈴鹿ブロック）、堀川（津ブロック）、高柳（松阪・伊勢ブロック）、岡（松阪・伊勢ブロック）、西村（熊野ブロック）、三上（オブザーバー） |
| 欠席者 | 藤岡（伊賀ブロック） |
| 書　記 | 岡（松阪・伊勢ブロック） |
| 議　題 | 1.各ブロックからの報告について  2.PHUGの検討  3.その他 |
| 議事内容 | 1.各ブロックからの報告について  ・災害等の特記事項は無し。  ・平成31年3月6日に「災害時における福祉支援ネットワーク協議会が開催され、辻委員長が参加した。他の団体は、会長が参加していたため、今後は下方会長に参加を依頼した。三重県広域受援計画における一般避難所に避難した高齢者・障がい者等の災害弱者への支援の仕組み作り、被災した社会福祉施設や福祉避難所への支援を行う災害福祉支援ネットワークの仕組み作りを今年度行うという内容。また、各専門職団体と三重県、社会福祉協議会の三者で協定を結び、相互支援できる環境を作ることが話し合われた。  ・4月の臨時役員会において、災害対策の予算については、余った予算を使えることが決定した。  2.PHUGの検討  ○シチュエーション、ルール（確定事項）  　前回の会議で決定したシチュエーションの再確認と、ルール等を検討し、以下のように決定する。  ・南海トラフ地震（震度7）が発生し、避難所に派遣された精神保健福祉士としての対応を話し合うゲームとしていく。  ・ケースを話し合う時間10分、発表10分、回答10分の時間配分とする。回答は、パワーポイントを使用。また、必要な知識の紹介も行う。  ・避難バックを用意し、その中に3日後、10日後、1か月後に起きるであろうケースカードを入れ、対応についてグループワーク形式で話し合ってもらう。  ・ケースについては、薬、不眠、イライラ感、自殺企図などの本人に関する事項と、周囲からの不確定情報（病院に通院しているようです）、近隣トラブル（話しかけ方）、避難しようとしない、避難先で生活出来ない、イベント系カード（慰問、インタビュー）、落し物対応（薬、手帳）、精神保健福祉士としての倫理観を問うもの等を予定。  ○シチュエーション、ルール（検討事項）  　ゲーム性を持たせるためにどのような組み立てが必要であるのか検討を行う。以下今回の会議で出た意見。  ・出た意見を投票で順位付けをしてはどうか。  ・多くの意見が出たグループを勝者としてはどうか。または、独自性の意見が出たグループを勝者としてはどうか。  ・ビンゴ形式にし、出た意見を数字に見立てて埋めていくのはどうか。  ・グループごとに、3日後、10日後、1か月後にどのようなケースが起こるのか、グループオリジナルの問題を作ってもらうのはどうか。  ・時間経過毎に追加情報を提示し、より深い検討を促すのはどうか（例：女性である、統合失調症である等）。  ・複数のキーワードを提示し、そのキーワードはどの段階に起きるのかを話し合ってもらってはどうか。また、そのキーワードの中に不要なキーワードを入れ、当ててもらうのはどうか。  ・穴埋めクイズ形式にしてはどうか。1問クリア毎にキーワードを渡し、どのような言葉が埋められているか当ててもらうのはどうか。  ○結果  ・今回の検討結果を基に試作を行う。  ・次回PHUGの試作版を体験し、他に必要な情報は何か、ゲーム性を持たせるためにどのようなことが必要かを検討していく。  ・体験は、災害委員が半数に分かれ、体験組と傍観組、それぞれ1回ずつ体験し、意見交換を行う。  3.その他  　特記事項無し。 |
| 次　回 | 日　時： 令和元年8月10日（土）13:30～16:00  場　所： 榊原病院　第一研修室  書　記：  宿　題：PHUGのゲーム性を考えてくる。 |